

横浜国立大学 副専攻プログラム
Yokohama National University Undergraduate minor program

地域交流科目

履修案内 2026

"Local-exchange Subjects" 2026 Syllabus



オリエンテーションについては



HPをチェックしてください。

<https://chiki-ct.info/kouryu>

グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端的かつ複合的な**実践能力**を身につけるプログラム

This program trains students to solve local challenges
with a global perspective and acquire advanced, integral, practical skills.

『地域交流科目』の概要

Outline "Local-exchange Subjects"

グローバル化が進むなかで、実際の経済活動の場である都市・地域の活力を維持し、そこに生活する市民の生活の質をいかに高めていくかが、21世紀初頭の課題になってきています。

このような現代的課題とニーズに対応するため、本学では、「教育学」「経済学」「経営学」「理工学」「都市科学」が連携して、各学部領域を横断して学べる副専攻プログラム「地域交流科目」を設置し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラムを設けています。

*副専攻プログラムとは

副専攻とは、自分自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学習するプログラムです。

副専攻プログラムである「地域交流科目」は、「地域」に関わる知識を学部横断型で学び、地域への「交流」を踏まえながら、実践能力を身につける副専攻プログラムとなっています。

*副専攻プログラムの修了認定

- ・修了認定の要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- ・修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム（地域実践）修了」と記載されます。
- ・これまでの実践的な取り組みを就職や進学の際に端的にアピールするものとして効果が期待できます。

* About the Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects"

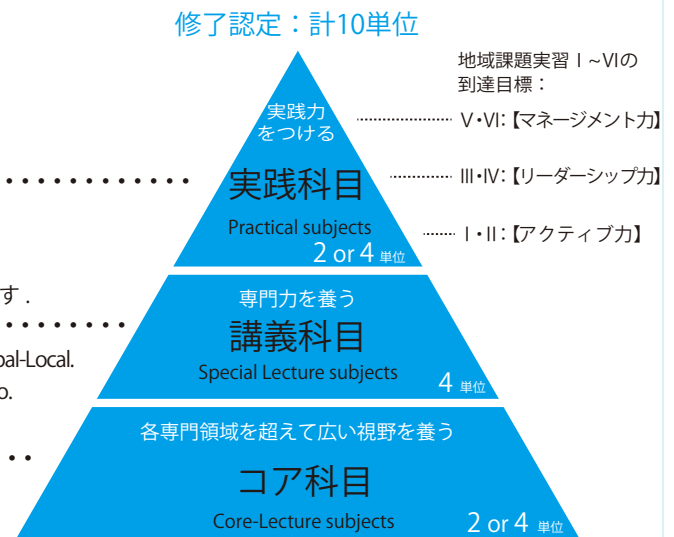
Local-exchange Subjects connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects, ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. On completion of these ten credits through attendance and participation, the student will be awarded a completion certificate for the accredited minor program.

*地域交流科目のプログラム体系

- ・実践科目は各地域の課題を解決するために実践的活動です。
- ・地域課題実習やその他の実践的な授業から、学生は選択できます。
- ・多くの学生が複数年にわたり履修・参加しています。
- ・The Practical subjects are active to solve the problem in local.
- ・Student can select a project from the Local Challenges Trainings.
- ・Many students are studying it over the years.

- ・講義科目は各学部から提供されている地域に関する専門的講義です。
- ・自分自身が所属する学部以外の講義の受講が可能です。
- ・Special Lecture subjects are picked up by each department about the Global-Local.
- ・It is possible to take the lectures outside of the department you belong to.

- ・コア科目では地域に関する基礎的な知識を学べます。
- ・地域で活躍する教員・実務者・行政によるオムニバス講義です。
- ・Learn about the basics of local areas.
- ・Omnibus lecture by the professor, businessman, government.



単位の修得例：
コア科目 4 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 2 単位 = 計 10 単位
コア科目 2 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 4 単位 = 計 10 単位

※地域課題実習は 2022 年度から地域課題実習Ⅴ、Ⅵが加わります。各段階の到達目標は下記のとおりです。

- ・**地域課題実習Ⅰ・Ⅱ:【アクティブ力】** 対象とする地域の特徴や課題、およびプロジェクト活動の内容を把握する。プロジェクト活動を通じてコミュニケーション力をつけ、能動적およびアクティブに活動を実践できる力をつける。
- ・**地域課題実習Ⅲ・Ⅳ:【リーダーシップ力】** プロジェクト内のグループの班長、さらにはプロジェクトのリーダーとして、活動を推進する力をつける。また、地域関係者との連絡・調整を行うことができるコミュニケーション力を身につける。
- ・**地域課題実習Ⅴ・Ⅵ:【マネジメント力】** プロジェクトのリーダーとしてプロジェクトをマネジメントする力を身につける。また、地域課題実習全体に目を向けて横断的な連携や、国内外における様々な取組みに目を向けた情報発信など、プロジェクト活動の更なる発展や展開方法を図る力をつける。

履修・申請の流れ

Step for the take the subjects and applications



「オリエンテーション」は動画で配信！

下記および右のQRコードによるHPを通じてYouTube等の情報をチェックしてください。



<https://www.chiki-ct.info/kouryu>

地域交流科目の説明や、地域課題実習の各プロジェクト等の紹介があります。教員や昨年から履修・参画している学生達からの楽しく充実したプレゼンテーションが盛り沢山。気になる方はCheck out！



「履修登録」

副専攻として履修する単位が、各学部における卒業取得要件と重なる場合は、どちらの単位としても認められます。

most important!

実践科目：「地域課題実習」を履修・参画する全員の方へ：

地域課題実習のⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵのいずれかを履修登録した上で、「所属したいプロジェクト」を、下記サイト(QRコード)の「地域課題実習 参画プロジェクト申請フォーム」から登録申請をしてください。

<https://forms.office.com/r/X11e0d7UCy>

* 地域実践センターのHPサイトにも、上記 form アドレスは掲載されています。

(登録申請をしないと成績が付きません！)



最重要

■ 申請×切は4月21日(火) 23:59まで

地域課題実習は1年間を通じて同じプロジェクトを履修・参画してください。

要既読

地域課題実習を「単位履修なしで参画したい人」も所属したいプロジェクトの登録申請をして下さい。

要既読

秋学期に、地域課題実習を履修登録し忘れないように！忘れる人が多いです。>_<;

要既読



「地域交流科目」計10単位

「地域交流科目」は、4年間をかけて、どの科目・授業から履修しても良いです。

修了認定申請書

「修了認定」の申請

* 修了認定は自己申請によって認定されます。

修了認定の要件：

- ①：コア科目 2単位以上 取得
 - ②：講義科目
 - ③：実践科目 2単位以上 取得
 - ④：上記①と③の合計6単位以上
 - ⑤：講義科目と合わせて上記①~③の合計が10単位以上
- * 2022年度の申請分から「GPA 3.0以上であること」の要件が外されました。

* 申請方法が、2022年度より変更されます。

修了申請する人は、下記の申請フォームを通じて申請してください。

* 下記フォームにおいて「貴方の地域交流科目の単位取得状況・結果を、事務局を通じて確認すること。」を承認することで、成績証明書の提出は不要になります。

■ 修了申請フォーム：<https://forms.office.com/r/0Y4g6Z0umd>

* 地域実践センターのHPサイトにも、上記 form アドレスは掲載されています。



申請×切：4/21, 11/20, 2/12*

修了認定は自己申請によって認定されます。修了申請を出すタイミングは、単位取得直後でも、就活・進学前の時期でもOKです。

要既読

- ・ 申請の×切後：1ヶ月後ぐらいに認定がされます。
- ・ 提出は随時受け付けています。

「地域交流科目」一覧

The List of the "Local-exchange Subjects"

●各授業の内容は、全学教育科目および各専門科目のシラバスをご確認ください。

カテゴリー	開講学部	科目名	担当	対象学年	開講期	単位	備考欄
コア科目	全学教育科目	地域連携と都市再生A (ヨコハマ地域学)	志村・内海・秋元	1~4年	春	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修
		地域連携と都市再生B (かながわ地域学)	志村・池島・伊集	1~4年	秋	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修
		Local Partnerships and Urban Regeneration A	志村・内海・秋元	1~4年	春	2	ソクラテスプログラムの学生専用
		Local Partnerships and Urban Regeneration B	志村・池島・伊集	1~4年	秋	2	ソクラテスプログラムの学生専用
		神奈川のみらい	為近	1~4年	春	2	
		横浜学-地域の再発見-	安野	1~4年	春	2	
講義科目	全学教育科目	建築の環境と防災	河端 他	1~4年	秋	2	※一部学科・EP(建築系)履修不可 科目名変更 (旧:ベンチャーから学ぶマネジメント) (市村先生定年に伴い2/6時点未定)
		アントレプレナーシップ論	軸屋	1~4年	秋	2	
		現代の物流経営	倉田	1~4年	秋	2	
		環境をめぐる諸問題Ⅰ	酒井 他	1~4年	第4ターム	1	
		環境をめぐる諸問題Ⅱ	小林 他	1~4年	第5ターム	1	
		グローバル化と日本人	市村	1~4年	秋	2	
		安全・環境と社会	澁谷 他	1~4年	春	2	
		エネルギーと環境	辻隆男	1~4年	春	2	
		海事技術史	増田光弘	1~4年	春	2	
		海洋工学と社会	海洋EP各教員	1~4年	秋	2	
		物質工学と社会	笠井尚哉・他	1~4年	春	2	
		ITシステム開発プロセス	藤井、葛谷	2~4年	春	2	
		日本の言語	古田恵美子	1~4年	春	2	
		日本前近代史	多和田雅保	1~4年	春	2	
		心理学史	鈴木朋子	1~4年	春	2	
		JASPによるデータ分析	山本 光	1~4年	春	2	
		身近な電気と機械	坂本智	1~4年	春	2	
		特別支援教育入門	徳永 亜希雄・他	1~4年	春	2	
		特別支援教育入門	軍司 敦子・他	1~4年	秋	2	
		講義科目	教育学部	日本史概論Ⅰ	多和田雅保	2~4年	
教育社会学	新谷 康浩			2~4年	春	2	
教育経営	未定			2~4年	春	2	
情報通信技術の活用	村上唯斗			1~4年	第5ターム	1	
ICTによる現代的な教育課題の解決	村上唯斗			2~4年	秋	2	
英語文学論Ⅰ	高瀬 祐子			2~4年	春	2	
英語文学論Ⅱ	高瀬 祐子			2~4年	秋(不定期集中)	2	
英語圏文化論	高瀬 祐子			2~4年	秋	2	
化学特講Ⅱ	鈴木俊彰			3~4年	春(集中)	2	
生物学特講Ⅱ	倉田薫子			3~4年	春(集中)	2	
中等教科教育法(音楽Ⅲ)	金光真理子			2~4年	秋	2	
音楽史概説Ⅰ	金光真理子			2~4年	秋	2	
音楽史概説Ⅱ	金光真理子			2~4年	春(集中)	2	
住居学演習	佐桑あずさ			3~4年	秋	2	
講義科目	経済学部	地方財政	島村(伊集)	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級地方財政	島村(伊集)	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級地方財政	島村(伊集)	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		地域経済政策	居城	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級地域経済政策	居城	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級地域経済政策	居城	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		国際環境経済論	氏川	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級国際環境経済	氏川	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級国際環境経済	氏川	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		現代社会福祉	相馬	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級現代社会福祉	相馬	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級現代社会福祉	相馬	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		比較農業政策	倪(池島)	2~4年	第1ターム	2	H29以降入学生
		中級比較農業政策	倪(池島)	3~4年	第2ターム	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級比較農業政策	倪(池島)	2~4年	第2ターム	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		課題プロジェクト演習 地域経済	—	2~3年	—	2	経済学部生のみ受講可
		途上国経済	山崎	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級途上国経済	山崎	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級途上国経済	山崎	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		地域イノベーション政策	遠藤	2~4年	秋	2	
家族と法	柳迫	3~4年	春	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)		
家族と法	柳迫	2~4年	春	2	経済学部DSEP生のみ		
民法(親族・相続)	柳迫	2~4年	春	2	経済学部LBEEP生のみ		



凡例

プロジェクト (PJ) 名
Project Title

①プロジェクトの種類 (下記のどちらか)
 ・教員立ち上げ型プロジェクト
 ・学生公募型プロジェクト
 ・共創型プロジェクト

②担当教員名、連絡先

③学生公募型プロジェクトの場合の代表学生、連絡先

④Overseas student (留学生の履修・参画)

⑤プロジェクトで取り組む「地域課題」とは

⑥活動の目的、今年度の活動目標・内容

⑦当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力

⑧履修・参加者数の制限 (共創型プロジェクトのみ)

※詳細および追加情報は、下記サイトからダウンロードできます。

<https://chiki-ct.info/kouryu>

01

アグリッジプロジェクト
Agridge Project

①学生公募型プロジェクト
 ②池島祥文: ikejima@ynu.ac.jp
 ③疋田和子、柳田紗希: face.kmmy@gmail.com
 ④Overseas student: ○

⑤地域コミュニティの希薄化が進み、人と地域のつながりが弱まっている。また、都市住民と農業の距離が広がることで農業関係人口が減少し、農業に関心を持つ人も少なくなっている。アグリッジプロジェクトはこれらの課題に農業と食を通して取り組む。

⑥農業や食による地域活性化を目的として大学近くの畑や周辺の地域を拠点に活動する。「ビジネスによる経済活性化・地域コミュニティの活性化・農業の活性化」という3つの軸とそれを実現する4つの部門により農業を通じた地域活性化を行う。多数のプレーヤーを巻き込みながら学生が主体となり多様な活動をしていく。活性化」という3つを軸にして、多数のプレーヤーを巻き込みながら学生が主体となり多様な活動をしていく。

⑦関心分野や専門分野のスキル・知識を得ることはもちろん、外部関係者と自分で交渉し巻き込む力やPDCAを回す力、プロジェクトマネジメント力など、社会人として重要な能力の習得を重視している。

02

BOSAIラボ
BOSAI lab

①教員立ち上げ型プロジェクト
 ②小松怜史: komatsu-satoshi-yx@ynu.ac.jp
 ④Overseas student: ○

⑤地域住民は普段防災という分野について触れる機会が少なく、環境や世代間の教育の違いによって事前の対策や被災時の行動など防災について知識のギャップが生まれています。このような現状で地域住民が防災リテラシーを育むための機会の必要性に対して、実際に提供されている機会が少ないという地域課題に取り組んでいます。

⑥BOSAIラボは大学生である自分たちが架け橋となり、人々が防災に触れる機会を広げていくという目的のもと活動しています。今年度は現在連携している保土ヶ谷区との活動だけでなく、新たに地域の企業と連携して防災イベントの開催・出展を行い、より地域と密着した活動を目指します。また、ぼうさいこくたいというエキスポへの出展や防災に関する研究・調査活動など、実践と研究の両面から地域課題にアプローチする活動を行います。

⑦BOSAIラボの活動を通じて、災害に対する基本的な防災リテラシーや備蓄を始めとして簡易トイレの使用方法など被災時となった場合に基礎的な対応を行える知識・能力を習得してほしいと考えています。

03

ロカモビプロジェクト
Community development practice from the perspective of locality and mobility

①学生公募型プロジェクト
 ②池島祥文: ikejima@ynu.ac.jp
 ③(共同代表) 孫嘉維 son-kai-ky@ynu.jp
 林勇輝 hayashi-yuuki-sm@ynu.jp
 ④Overseas student: ×

⑤どの地域にも、代えがたい固有の資源や魅力的なコミュニティが存在している。しかし、豊かな地形ゆえの移動の難しさや、まだ広く知られていない魅力などが、日常の交流を阻んでいる側面もある。本プロジェクトでは、モビリティを起点に移動の楽しさを増やすことで、人と地域の新たなつながりや交流を創出したい。

⑥まちの魅力を高めるために地域と移動の視点から地域の方々や企業、行政、学生内の対話を通じて実践的にまちづくりに取り組み、モビリティ(移動のしやすさ)のあり方の提案・実装を目指す。2026年度は「観光教育プログラムの考案」「地域拠点からつながりをまちに拓く活動」「みらいの駅まちを描く活動」に取り組む。

⑦人々の移動のしやすさやまちづくりの関係を学び、地域の課題解決や目標達成のための交通サービスのあり方、空間のあり方、情報提供のあり方を考え、それらの具体的な実現策を描き出し、実現する力をつける。

04

コットンおとなりさんプロジェクト
Cotton Otonarisan Project

①学生公募型プロジェクト
 ②伊集守直 iju-morinao-sx@ynu.ac.jp
 ③山内理紗子 yamauchi-risako-nt@ynu.jp
 ④Overseas student: ○

⑤現在、都市部への人口集中を背景にマンションの増加が目立っている。また、高齢社会となっている日本では、マンションの住民間の助け合いがより一層重要なものになっており、横浜市神奈川区にある「コットンハーバー地区」という高層マンション群に暮らす住民同士のつながりを強化する必要がある。

⑥横浜市神奈川区にある「コットンハーバー地区」という高層マンション群で、世代を超えて住民がつながることのできるコミュニティをつくることを目的に活動している。今年度は、新入生の動誘活動力を入れるとともに、これまでの活動を振り返りながら、より多くの学生の意見を取り入れた、住民目線の地域イベントの企画・運営を行う予定だ。広報活動にも力を入れ、活動の幅と発信力をさらに広げていく。

⑦地域イベントの企画・運営を通して、自分の意見やアイデアを積極的に発信しそれを実現する力。また、メンバーとの活発な議論を通して、自分とは違う考えを受け入れながら、より良い企画案を構成していく建設的な力。

05

キャンパスの魅力を耕すプロジェクト
Cultivating attractions of campus project

①学生公募型プロジェクト
 ②藤原徹平 fujiwara-teppe-i-tw@ynu.ac.jp
 ③川井慶 kawai-kei-nr@ynu.jp
 ④Overseas student: ○

⑤横国のキャンパスには学生が自由に居場所を作ることができる空間が少ないと感じています。大学から与えられた場所を学生が使うだけではないキャンパスと学生の関係性の作り方を考えています。

⑥キャンパス内の資源を活かした居場所づくりに取り組んでいます。居場所をつくること、つかうことを通じて地域との交流を深めることを目的としています。日干しれんがの工法研究に始まり、建築学科棟横の居場所づくりや、窯を中心とする新たな活動の創出に取り組んできました。また、一昨年から横浜の児童館や真鶴の大学施設でも活動をしています。

⑦キャンパス内外で、身近なところに潜在的な資源を発見して居場所を作る知識・技術・能力、学生と地域の交流の在り方を模索していきます。

06

“緑食の場”を耕すプロジェクト
Cultivating spaces of "Enshoku" as a community hub

①学生公募型プロジェクト
 ②寺田真理子: terada-mariko-zt@ynu.ac.jp
 ③白谷友樹: shiratani-tomoki-zd@ynu.jp
 ④Overseas student: ○

⑤一人でご飯を食べることの多い独り暮らしの学生や、家族と食事を共にできない子供たちなど、地域の中でそれぞれ食の形に関して悩みを持っている人たちへ、“緑食”という新しい食の形の提案

⑥孤食と共食のあいだである“緑食”のコミュニティから多様な人々に開かれた交流の場を作ることを目指します。年間を通じた活動として、公開講座横浜建築都市学終了後に講師の方々や地域の方々を交えた緑食会を開催します。今年度は学生に緑食の活動への参加を促す他、地域の人々との交流を目的とした様々な活動を増やすことを目標とします。さらに他の地域課題実習との連携を増やしより幅広いコミュニティに緑食を広めていきます。

⑦準備・食事・片付けの一連の食のかかわりを通じて、他学年の学生との積極的な交流、大学近くの地域の方々とのコミュニケーション力が育まれるとともに、緑食論や多様な食の在り方についての知識が身に付きます。

07

まちに開いた交流の場のデザイン
—住宅地の価値を上げる—
Designing an Open Community Space in the Town

①教員立ち上げ型プロジェクト
 ②江口亨: eguchi-toru-ch@ynu.ac.jp
 ④Overseas student: ○

⑤野毛山の住宅地にあるシェアハウス「casaco」にて、100%ボランティアでもなく、100%ビジネスでもない形態で、地域の価値を高める取り組みをする。具体的には、住宅地における多様な人々の交流を通じて、補助金に頼らない、持続的で自立したまちづくりを行う。

⑥野毛山の住宅地にあるシェアハウス「casaco」にて、1階にある地域に開かれた場の使い方を企画・運営し、エリアの価値向上を目指す。その場の主な利用者は、地域住民やシェアハウスに住む留学生であり、学生はそこに開く場場の価値を高める企画を実施する。また、建物の運営資金の収入源はシェアハウスの家賃であることを意識し、casacoで稼ぐモデルを立案することも目指す。

⑦地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、稼ぐビジネスを立案するのでもなく、その中間の方法を用いる。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学んで欲しい。

08

eco-mal
—横浜でエコをノーマルに—
eco-mal -Making Eco Normal in Yokohama-

①学生公募型プロジェクト
 ②松本真哉 matsumoto-shinya-py@ynu.ac.jp
 ③清野祐佑 kiyono-shu-cz@ynu.jp
 ④Overseas student: ○

⑤脱炭素先行地域である横浜市において、家庭からは企業や行政と比べ、CO₂排出量が十分に減っていない。その背景の一つとして、日常のなかでエコな行動を自然に選べづらいたことが課題であると考えます。

⑥私たちは、横浜市地球温暖化対策推進協議会などの地域団体と連携して、「環境にやさしい行動を誰もが気軽に選べる」ことが当たり前の日常を目指します。横浜市内の区民まつりや常盤祭など学内外のイベントをはじめとして、ゴミの分別やエコ製品使用等のサポートを行うことで市民にエコな選択肢を提供します。環境問題・環境教育やイベント運営に関心のある、全学部の方を歓迎します。

⑦環境分野の知識・スキルを会得すること。また、専攻での学びや問題意識を基に身近な社会の課題を分析し、解決に向けて構想から実践まで落とし込む力を獲得すること。これらを主体的に実行する力を身につけてほしい。

09 えんぴつルーム
 「南米パラグアイ農村部での学びを生かした横浜『共生』プロジェクト」
 Enpitsu Room: "Yokohama "Coexistence" Project: Applying Lessons Learned from Rural Paraguay, South America"

①教員立ち上げ型プロジェクト
 ②藤掛洋子: fujikake-yoko-mp@ynu.ac.jp
 ④Overseas student: ◎

⑤地域の子ども達に、家でも学校でもない斜めの空間を提供し、えんぴつルームでは、学習支援、食支援、多文化共生の空間を創造し、子ども達があるのままでいられる場所づくりを行う。団地住民の高齢化や地域の子ども達との交流の減少を食い止め、団地内における子ども達の居場所作りを通して団地や地域の活性化に貢献する。
 ⑥横浜にある泉宮5団地において子どもたち（含む外国につながる子どもたち）を対象に南米にあるペン・ピペール（良い暮らし）という共助の文化を取り入れたサポート空間を作り、学習支援・食支援・傾聴（含む遊び）などを行う。履修学生たちは、NPO、行政、地域組織、地域住民との意見交換などを通じて、地域の子どもたちに第三の居場所を提供する。活動場所は団地内の一室であり、NPO法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金が運営。
 ⑦【知識】 地域の子ども（含む外国につながる子ども）の状況を知る。【技術】 団地やその周辺に居住する子どもたちの状況を s 観察し、インタビュー等を通し、理解する。【能力】 他組織との連携・企画力を習得する。

10 eスポラボ
 ～eスポーツを活用した地域共創・健康・交流促進プロジェクト～
 NEW E-spo Lab - Community-based e-sports project for health, inclusion, and regional engagement-

①教員立ち上げ型プロジェクト
 ②時野谷勝幸: tokinoya-katsuyuki-ys@ynu.ac.jp
 ④Overseas student: ◎

⑤地域における若年層と高齢層の交流機会の減少、運動・社会参加の低下、デジタル技術を活用した地域活性の停滞といった課題に対し、eスポーツを媒介として世代間交流・健康意識向上・地域参加を促進することを目指す。
 ⑥本プロジェクトでは、eスポーツを地域活動のツールとして活用し、世代間交流、健康づくり、地域コミュニティの活性化を図ることを目的とする。今年度は、地域団体や自治体と連携し、eスポーツ体験会・交流イベントの企画運営、効果検証（参加状況・満足度・交流の質）を行う。学生は企画立案から運営、振り返りまでを担い、地域実装型の実践を行う。
 ⑦地域課題理解力、企画・運営力、コミュニケーション力、多世代・多様性への配慮、eスポーツやデジタル技術を地域実践に応用する力。

11 二つ台みーとみーとPJ
 Futatsudai mt-mt Project

①学生公募型プロジェクト
 ②藤岡泰寛: fujioka-yasuhiro-fg@ynu.ac.jp
 ③林凌央: hayashi-ryo-cn@ynu.jp
 ④Overseas student: ◎

⑤かつて地域の中心だった「二つ台商店街」が相次ぐ閉店により消滅し、地域から日常的な居場所と交流機能が失われたことが課題です。高台の住宅地で商業機能がなくなった結果、住民の繋がりが希薄化し、防災や相互助けといった地域コミュニティの基盤そのものが揺らいでいます。
 ⑥学生と地域が「二つ台みーとみーと」という拠点を通じ、フラットに繋がる多世代交流拠点の創出をします。レンタルキッチンスペースでの食事提供や交流イベントを定期開催し、学生ならではの視点で新たな人の流れを構築します。地域と協働し、誰もが気軽に立ち寄れる持続可能なコミュニティ基盤を確立します。また、地域向けのイベントを、学生主体で開催します。
 ⑦多様な住民や関係機関と対等に渡り合い、信頼関係を築く「合意形成力」。拠点の企画から運営までを担う「実践的マネジメント力」。そして、机上の空論ではなく現場で課題解決を成し遂げる「実行力」です。

12 はまみらいプロジェクト
 Hama-Mirai Project

①教員立ち上げ型プロジェクト
 ②吉田 聡 yoshida-satoshi-vx@ynu.ac.jp
 ④Overseas student: ◎

⑤開港以来、港湾都市として発展してきた横浜であるが、産業構造の変化などもあり、海とまちとの関係が疎遠になってきている。今一度、海とまちとの関係を見直しつつ、旧市街の再生、持続可能な観光振興、防災・減災対策、歴史的都市景観の保全やウォータフロントの公共性確保などの課題に対応していく必要がある。
 ⑥横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、横浜の未来を考えるプロジェクト。具体的には「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に取り組んでいく。
 ⑦課題把握、未来志向の構想力、様々な主体との協働、実践力を習得して欲しい。

13 鶴見区での外国つながりの児童への学習支援
 Learning support for children with roots in foreign countries in Tsurumi Ward

①教員立ち上げ型プロジェクト
 ②山崎圭一: yamazaki-keiichi-zg@ynu.ac.jp
 ④Overseas student: ◎

⑤鶴見区の市立入船小学校でブラジル人などの外国つながりの子どもたちの学習支援（国語と算数）をNPO法人ABC Japanの活動に参加する形で実施する。同法人の本事業名は「つるみ〜によ」。同法人は、2023年の「地球市民賞」（国際交流基金）の授賞団体である。学内では関連の研究論文を輪読する。
 ⑥第11、年間を通じて入船小学校の「つるみ〜によ」の活動を支援しながら、現場の状況を知る。第2に多文化共生政策、外国人労働者、国際労働力移動、海外移住、ディアスポラなどに関する研究論文を輪読し、学術的論点を語る。第3に横浜でも多文化共生先進区といえる鶴見区を歩き、同区の特徴を知る。第4に多文化共生政策の課題と展望について考察し、自分自身の考えを深める。
 ⑦日本の海外移住の歴史、鶴見区の歴史、入管法の概要、国際労働力移動に関する経済学理論、多文化共生政策の理論と実態、外国人集住都市会議の取組みと意義など

14 地域フードデザインラボ
 Renewal Local Food Design Lab

①学生公募型プロジェクト
 ②池島祥文: ikejima@ynu.ac.jp
 ③上河内廉太郎: kamigochi-rentaro-zc@ynu.jp
 ④Overseas student: ◎

⑤本プロジェクトでは、獣害によって生じるジビエが十分に活用されず、地域の食文化や資源循環と結び付いていない状態を地域課題と捉えています。様々な食文化を体験的に学ぶことで、ジビエを軸に食材・技術・人の関係を捉え直し、地域資源が循環する仕組みを構築する必要がありますと考えています。
 ⑥獣害で生じるジビエを地域資源として捉え直し、里山の食文化と結び付けながら食を通じた地域循環を考えることが目的です。これまでの学外の自治体や企業に加え、今年度はNPO法人おだわらイノシカネットとも新たに連携し猟や罟の見学・体験など、より実体験を重視した実習を行います。味噌づくりや酒蔵見学などを通じて活動を広げるため、名称をジビエ料理研究会から地域フードデザインラボへ変更し、実践的な取り組みを展開します。
 ⑦獣害や里山をめぐる地域構造と食文化の関係を理解し、現場での体験を通じて得た技術、知識を踏まえ、食の現場での実体験を通じて自身の価値観や当り前を見直し、考えを深める力を養います。

15 international student lounge (isl)
 NEW

①教員立ち上げ型プロジェクト
 ②小松怜史: komatsu-satoshi-yx@ynu.ac.jp
 ④Overseas student: ◎

⑤本学の留学生およびその家族を含む、外国にルーツを持つ地域の方々に、日常生活で生じる悩みや課題を扱う。課題は個人の属性や状況に起因するものから、コミュニティ全体に関わるものまで幅広く、解決に要する期間も単年から複数年にわたる場合もある。具体的テーマは都度、構成メンバーで協議し決定する。
 ⑥本学の留学生やその家族を含む、外国にルーツを持つ地域の方々を対象に、現行の体制・制度で十分に対応しきれていない日常生活上の課題に対し、学生視点で解消を図る。
 初年度は活動体制の構築を最優先とし、留学生の参画も積極的に促す。あわせて、本学の留学生等が抱える課題を調査し、少なくとも1件の課題を設定する。その課題に対して具体的な対策を実施し、成果を分析・考察する。
 ⑦PJ履修者が主体的に課題を把握し、解決に向けて取り組むことで、ステークホルダーの課題解決に寄与するとともに、履修者自身の異文化理解が深まり、将来的に国際的な視点で活躍できる素養が養われることを目指す。

16 オモロイ病院プロジェクト
 ～産・学・医連携における課題発見・解決授業～
 Interesting and Comfortable Hospital Project

①教員立ち上げ型プロジェクト
 ②下野誠通: shimono-tomoyuki-hc@ynu.ac.jp
 ④Overseas student: ◎

⑤新湘南では2032年のJR新駅開設を契機に、ヘルスイノベーションを創発する健康長寿のモデル地域となることを目指した産学官医民連携による様々な活動が繰り広げられている。医療、交通、健康に向けた市民の行動変容などといった観点から、まちづくりと連動したポジティブな社会課題の発見と解決に取り組む。
 ⑥YNU新湘南共創キャンパスを活動中核サイトとし、湘南アイパーク、湘南鎌倉総合病院、鎌倉インターナショナルFC、藤沢市といった多様なステークホルダーとの連携を通じて、地域の様々な課題を発見・解決しながら、魅力的で活力溢れるまちづくりへの貢献を目指す。
 ⑦新湘南では2032年にJR新駅が開設される計画であり、新たなまちづくりが進められている。健康長寿のまちという地域ビジョン実現に向けた課題発見・解決活動に取り組むことで、学際的な視野を培ってほしい。

17 島プロジェクトin鳥羽
 Island Project in Toba

①教員立ち上げ型プロジェクト
 ②小林善明: kobayashi-takaaki-gv@ynu.ac.jp
 ④Overseas student: ◎

⑤本プロジェクトがフィールドとする三重県鳥羽市の離島は、豊かな海産物に恵まれ、漁村の文化伝統の残る魅力あふれる地域です。しかし近年は少子高齢化が進み、空き家や担い手不足といった地域課題を抱えています。このような地域が持続していくため、本プロジェクトでは我々大学生ができることに取り組んでいます。
 ⑥本プロジェクトは、過疎化の進む三重県鳥羽市の離島をフィールドとし、空き家再生・伝統行事保存・アート・教育など、島と外部の中間者として様々な地域おこし活動を行っています。発足5年目となる本年度は、お盆祭りのお手伝い・合宿やわかめ養殖業の手伝いなど様々な活動の継続と共に、これまでの活動で築かれた信頼関係や、様々な分野専攻の学生が集まるという我々の資源を生かす、更なる発展性のある取り組みを広げていきます。
 ⑦離島の課題は未来の都市の課題です。大都市・横浜では自身の学びと社会との接点を感じにくい人にぜひ、個人の役割の大きい離島で自分にできることを模索し、都市と地域を見つめ直す機会としてもらいたいです。

18

岩手らばーず Iwate-Lovers

- ①学生公募型プロジェクト
- ②田中 稲子：itanaka@ynu.ac.jp
- ③船木香凛：funaki-karin-wg@ynu.jp
- ④Overseas student：×
- ⑤横浜から遠く離れた岩手で現地の方との交流を通して、地方創生や地方でのまちづくりについて学びます。
- ⑥岩手らばーずは、横浜から遠く離れた岩手県をはじめとする東北の地域課題に学生の視点から向き合い、地域の方と協働しながら地方創生に貢献することを目的としています。今年度も引き続き岩手訪問を通して、人口減少や地元産業の担い手不足、地域内のつながりの希薄化といった地方ならではの地域課題や復興の在り方について考えていきたいです。また、他大学との交流を通して新たなイベントの企画も行っていきたいと考えています。
- ⑦地域課題を多角的に捉える分析力、住民や行政の方と協働する協調性、企画立案から実行・発信までを担う実践力を身につけて、地域に根差した行動ができる力を育てて欲しいです。

19

奏でる体験支援プロジェクト ～みんなの音楽室～ Let's Play Together: A Music Room for Everyone

- ①教員立ち上げ型プロジェクト
- ②森野かおり：morino-kaori-bj@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤本プロジェクトが取り組む地域課題は、子どもから大人まで、楽器に触れたり音を出したりする機会が限られ、音楽を身近に楽しめる場が不足していることです。
- ⑥本プロジェクトは、子どもから大人までが「正しく演奏すること」や「成果を出すこと」に限らず、聴く・触れる・試す・つくる・話すなど多様な関わり方で音楽を楽しめる場をつくることを目的とします。今年度は学内外で体験活動を実施し、地域に継続的な音楽の居場所を広げます。
- ⑦企画・運営を通して、対象理解と安全配慮、協働による運営力、即興的対応力を養い、音楽を媒介に多様な人と関わる実践力を身につける。

20

New - New Townプロジェクト -郊外住宅地のまちづくりを考える- New-New Town Project

- ①教員立ち上げ型プロジェクト
- ②野原卓：nohara-taku-zs@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤高度成長期にまとめて創られたニュータウンは、人口減少時代に高齢化が進むオールドタウンになりつつある。都心に勤め、夜だけ戻るベッドタウンとしての役割だけでなく、平日も休日も、昼も夜も、子どもから高齢者、住民からワーカーまで、様々な立場の人たちが一緒に集い活動する「ニュー・ニュータウン」を目指す。
- ⑥横浜市の特徴的な郊外住宅地の一つである、「相鉄いずみ野線沿線（南万騎が原駅周辺：通称みなまき）」で、相鉄×横浜×横浜国大×オンデザインでマネジメントする地域のまちづくり拠点「みなまきラボ」と連携することで、高齢化したオールドタウンを、活き活きとした「ニューニュータウン」にするための企画・実践活動を行う。2026年度は、みなまきラボや、関係主体（横浜市・相鉄、地域住民など）と連携しつつ、New-New Townを導くようなテーマ型のまちづくり活動を推進する。
- ⑦自発的で積極的な「活動力」、地域の課題を見抜ける「洞察力」、魅力ある企画を立てる「企画力」、地域とともに動く「巻き込み力・コミュ力」、小さくてもよいか具体的な物事を実現することに力を注げる「実装力」、自分で自主性をもって積極的に活動を推進できる人、熱意をもって活動できる人を求めている。

21

転倒しない街共創ラボ「こらぼ」

No Falling Down City Co-Creation Lab

- ①学生公募型プロジェクト
- ②島 圭介：shima-keisuke-sh@ynu.ac.jp
- ③大谷紗慧：otani-sae-bg@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤高齢化の進行に伴い、転倒リスクの増加や健康意識の低下が課題となっている。地域住民が自らの身体状態を知り、継続的に健康行動へつなげる仕組みが不足している点が地域課題である。
- ⑥立位年齢計測イベントを通じて、地域住民の健康意識向上と転倒予防を促進することを目的とする。今年度は計測機会の拡充に加え、結果のフィードバック方法や継続参加を促す仕組みを検討・実装する。また、自治体や金融機関等と連携し、地域内で循環する持続的なモデル構築を目指す。
- ⑦地域課題を構造的に捉える力、データに基づく企画立案力、外部組織と協働する調整力、そして実践を通じて改善を重ねる実行力を身につけてほしい。

22

おおたクリエイティブタウン 研究プロジェクト Ota Creative Town Project

- ①教員立ち上げ型プロジェクト
- ②野原卓：nohara-taku-zs@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：△
- ⑤東京23区でも最も町工場が多い「大田区」において、「モノづくりのまち」の現在と未来を考える。産業構造の変革、事業継承や人材不足、暮らしとモノづくりの関係性構築、こどもたちのモノづくりへの関わりなど（大田区の小学校は独自の授業がある）、単なるベッドタウンとしての住宅地ではなく、価値（モノ）を生み出すまちのあり方を考えることが求められている。
- ⑥モノづくりのまち大田区で、技術×創造×生活による「クリエイティブ・ファブタウン」構築を基に、(一社)大田クリエイティブタウンセンターや地域の町工場、諸団体と協働して、地域まちづくり拠点「くりらぼ多摩川」の運営、モノづくりのまちづくりイベント（おおたオープンファクトリー）への参画、モノづくり教育企画(ファクトリップ)や廃材活用(SCRAP)など、創造的な活動を行う。2026年度は、モノづくりの魅力を引き出す手法、モノづくりのまちの拠点づくりの手法の検討実践を行う。
- ⑦今あるモノづくりのまちの課題を自ら「見抜き」、これを解決して豊かなまちとするための「企画を立て」、地域の方々や仲間を「巻き込み」、小さくてもよいか物事を積極的に実現することに力を注げる「実装する」力。特に、自分で熱意と自主性をもって、積極的に活動に参画し、地域と協働できる人を求める。

23
NEW

東みよし町事業承継プロジェクト 「BATON (バトン)」 Project "BATON" - Business Succession Relay in Higashi-Miyoshi

- ①共創型プロジェクト
- ②山口大地：yamaguchi-daichi-tp@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：△
- ⑤徳島県東みよし町では、後継者不在により黒字廃業する「静かな廃業」が進行しています。その原因は人材不足だけでなく、経営者の「心理的壁」や、経営状況が見えない「情報の壁」、将来性が描けていない「事業価値の壁」にあります。この3つの壁を壊し、地域の重要なインフラである企業を存続させることが課題です。
- ⑥営業スキルや課題解決手法などの十分な勉強会を実施したうえで、東みよし町内の企業経営者へ徹底的なヒアリング・連携提案を行います。その後、横浜（首都圏）の「プロ人材」に対して、連携企業の事業価値向上に向けた共同伴走支援のパートナーとしての協力を提案し、プロ人材と協働しながら事業承継（M&A等）を目指して東みよし町内企業の事業価値を磨き上げる伴走支援を進めていきます。今年度目標は目に見える成果創出です。
- ⑦経営者やプロ人材を動かす「営業力」、論理的な課題解決・提案力、そしてプロ人材や高齢経営者と協働する「多世代共創力」。就職活動で最強の武器となる「成果への執着心」を養います。
- ⑧人数：5～6名まで

24

伝統茅葺き民家「花三郎の家」 継承プロジェクト

Project of preservation and utilization of the thatched-roof private house "Hanasaburo-no-ie" in Kamadai

- ①教員立ち上げ型プロジェクト
- ②大野敏：ono-satoshi-cs@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：△
- ⑤緑多い屋敷奥に眠る江戸時代の古民家「花三郎の家」。所有者さんと連携して継承手法を具体的に考えます。
- ⑥江戸時代の古民家「花三郎の家」。釜台町が住宅地化する以前の1960年代に旧津久井郡から移築されました。移築主は鈴木花三郎さん。会社経営者だった花三郎さんは、富士山が眺望できるこの地に素敵な本宅を構え、その前方に古民家を移築して社員の情操教育に活かそうとしました。花三郎さん没後、古民家は活躍の場を失っていましたが、所有者さん(花三郎さんのお孫さん)と連携して、この家を蘇らせ活かす方法を皆で考えましょう。
- ⑦伝統的な建築資産を継承している所有者および資産に敬意をもって接することができる素養。伝統的建築とその環境の維持継承に対する基礎知識。所有者・地域の人・仲間とのコミュニケーション能力。

25

データで捉える地域課題・地域経済2026 Regional Issues and Economies Captured by Data 2026

- ①教員立ち上げ型プロジェクト
- ②居城琢：ishiro-taku@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤本プロジェクトは、横浜市・神奈川県をフィールドとして、交通、福祉、地域循環、スポーツの進行といった地域課題に取り組みます。
- ⑥本プロジェクトは、横浜市・神奈川県をフィールドとして、学生自身が調査に取り組み、地域の素材を発掘することを目的とします。その成果を各自自治体や、企業との共同研究として社会に発信することを狙います。
- ⑦実際に地域の現場に飛び込むことができる学生を求めます。
- みずから課題の設定、調査、活動の遂行、成果報告に向けた準備・資料作成を進める能力を習得して欲しいと思います。

26

サコロバ

Sacolabo

- ①学生公募型プロジェクト
- ②藤岡泰寛：fujioaka-yasuhiro-fg@ynu.ac.jp
- ③大西創：onishi-so-sk@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤左近山団地は賑わいがあり、イベントも多い団地です。一方で高齢化などの問題もあり、学生が実際に地域に出て、世代間交流を果たしながら地域の方と協働で活動を行うことが必要です。
- ⑥左近山団地を対象に、世代間交流をしながら地域活性化の創出と持続を目的に活動します。団地内でのイベントを中心に地域住民との交流や協働し、地域に根ざした活動を実施します。また団地内の自治会館の改修Pやイベント時のピザ窯出店、小学生への学習支援など、幅広く柔軟な活動を行います。
- ⑦地域の方と共同で取り組み、実際に活動を展開するというプロセスによって、学生自ら主体となって地域でアクションできることを実感し、自らの経験やスキルに活かして欲しいです。また自身の興味や学問領域に基づいた地域の課題を分析し、解決していく能力を身につけて欲しいです。

27 里山コミュニティデザイン Satoyama Community Design

- ①学生公募型プロジェクト
- ②原口健一：haraguchi-kenichi-kx@ynu.ac.jp
- ③井手隼太郎：ide-juntaro-br@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤学内に広がる豊富な自然資源を活用して、学生や地域の人々が自然と向き合う居場所を創出することを目指しています。自然が好き、好きだったという方だけでなく、協働する場に興味がある方も是非一度活動にお越しください。
- ⑥自然を保護するという事は、ただ守るだけでなくしっかり人が適切に手入れをしていくことでもあること。意欲的に自然と向き合っ、自然の中でやりたいことを発見しそれを実現する能力。自然の材を人によって文化として紡ぐための視点を広げようとする態度。

28 好奇心の種をまくプロジェクト ～CurioSeeds～ Sowing seeds of curiosity～CurioSeeds～

- ①教員立ち上げ型プロジェクト
- ②松本真哉：matsumoto-shinya-py@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤本プロジェクトでは、日本全体で近年抱える次の2つの課題に取り組む。(1)若者の理数系離れ：資源に乏しい日本が国際競争力を維持・向上させるためには、理数系分野を担う人材の育成が不可欠である。(2)AI時代における主体的思考力の育成：知識量でビッグデータに及ばない現代において、人間に求められる能力が変化している。
- ⑥本プロジェクトは、(1)理数系分野の魅力発信と(2)知識の活かしから脱却した、真に思考力を育む教育実践を目的とする。具体的な活動として、[昨年度から継続]自主開催および行政・科学館・NPO法人等と連携した理科体験イベントを実施する。加えて、[今年度から新規]理科体験企画の教材化に取り組み、これまで横浜を中心に展開してきた活動について、地域の教育格差を意識しながら全国展開を図る。
- ⑦調査力（ニーズ把握、企画改善など）、主体性、企画・運営力、協調性

29 雪ノ国プロジェクト in コモンズラボ Renewal Snow Country Project in Commons Lab

- ①教員立ち上げ型プロジェクト
- ②藤井雪乃 fujii-yukino-yt@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤新潟県南魚沼市六日町では、人口減少と高齢化により、古民家や既存建築の維持・更新を担う人材が不足している。また、地域の建築文化だけでなく、既存の豊かな食文化の発展もまた、次世代へ継承されにくい状況にある。一方で、若者や外部人材が地域に関わるための継続的な拠点や実践の場が乏しいことも課題となっている。
- ⑥六日町を拠点にガレージ改修、古民家再生、新築工事など、建築を題材とした実践的な制作・施工・改修活動を行う。大学生、地域の職人、住民が協働し、設計・施工・使い方の経験をし、建築・地域文化の継承と新たな価値創出を目指す。また米などの豊かな食文化や雪国ならではの産業を通じ、一年を通して「つくる過程」を地域に開き、学びと交流が循環する場を育てる。並行して他地域のcommons型空き家活用の事例調査を行い参考にします。
- ⑦実際の建築や改修に関わる中で、地域特有の気候や産業といった潜在的な価値を見出しながら、他者と協働して空間をつくる力を身につける。設計から施工、その後までを見据え、自ら街を動かす主体性と知識を養う。

30 みなとまちプロジェクト The Port City Project

- ①教員立ち上げ型プロジェクト
- ②志村真紀：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤地方の「みなとまち」においては、かつての港としての役割・機能の移転や、港を拠点とした産業の衰退、高齢化による担い手不足等の理由で、港周辺の地域の活性化が失われつつある地域が多くある。
- ⑥上記課題に対して、みなとまちの魅力維持向上と地域の活性化を目的・目標として活動をしていきます。これまでに静岡県清水港を対象地として、調査・ワークショップを踏まえて地域資源：「お茶・清水次郎長・伊豆石・倉庫群・港湾線・富士山」のブランディング活動を展開してきました。今年度は加えて、静岡県富士市の田子の浦港と地場産業でもある「ほうじ茶」を対象に加えて、活動を展開していきます。
- ⑦地域資源と課題を多角的に理解し、課題解決に向けた検討、地域資源のブランディング、一般の方に向けたアピール・広報・販売活動を通じて、企画力・総合的なデザイン力・組織運営・コミュニケーション力を養う。

31 「ときわの森」生物調査団 “Tokiwa Forest”- Biological Survey Group

- ①学生公募型プロジェクト
- ②倉田薫子：kurata-kaoruko-tv@ynu.ac.jp
- ③森脇悠介：moriwaki-yusuke-zg@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤生物多様性保全が世界的にも着目される一方、横浜のような都市圏では自然と触れ合う機会が減少しています。生物多様性活動推進法では、地域の自然と触れ合う「場」と「機会」を創出することが謳われており、自然共生サイトとして認定された本学の役割として、地域とともにこの理念を実践していきます。
- ⑥自然共生サイトに認定された「ときわの森」の歴史・価値を見直し、生物多様性保全と緑地の管理について生き物調査をしながら学び、実践します。1970年代に造成された森は、外来種や遷移によってさまざまな問題が生じています。どのように手を入れることで地域の緑地を守るのか考え、生き物調査を通して地域と繋がり、ともに自然環境を維持していくことができる社会を目指します。
- ⑦生物の分類技能、自然観察の技法と普及、生物多様性保全に関する知識とインタープリテーション能力 など（生物分類技能検定や自然観察指導員などの資格に挑戦するのも推奨。）

32 Warka Water Towerプロジェクト Warka Water Tower project

- ①学生公募型プロジェクト
- ②志村真紀：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp
- ③橋本健人：hashimoto-kento-tv@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤地域における農業用水の供給の問題や都市におけるヒートアイランド現象などの都市問題といった課題に取り組みます。真鶴町のように地下水利用が難しい地域、横浜のように人や建造物が密集する都市では気候変動と地球温暖化による課題が顕著です。本技術により大気中の水に注目することでこうした課題を解決していきます。
- ⑥大気中の水を集める技術であるWarka Water Towerの日本での実用化を目指します。既に実用化されている放射冷却の強いアフリカの一部地域とは異なり、日本では現在のタワー構成では十分な結果を得られないことが判明しました。企業や高校生、研究が盛んにおこなわれている海外の研究者との連携をしながらタワーの最適化をしていきます。大学内で研究活動と他組織との連携活動をし、主な実験場である真鶴町でアイデアの試行錯誤を行います。
- ⑦日本では活発でない分野で単なる調べ学習や生成AIでは到達できないことを目標としています。新しいアイデアを浮かべる創造力やそれを実行する実践力が大切です。PJ内外で協力と連携を通して様々な経験をします。

33 ワダヨコ Wadayoko

- ①学生公募型プロジェクト
- ②尹莊植：yoon-jangshik-mr@ynu.ac.jp
- ③山納彩：yamano-aya-hj@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤和田町周辺地域における、自治会・町内会や商店街の担い手不足や高齢化、地域活動の停滞といった課題です。学生が継続的に地域へ関わり、行事運営や企画を通じて人のつながりを生み出し、地域コミュニティの維持と活性化を目指します。
- ⑥本プロジェクトは、学生が和田町地域に継続的に関わることで、地域との関係性を深め、地域コミュニティの活性化と商店街の賑わい創出に貢献することを目的としています。今年度は、地域行事やイベントへの参画を通じて交流の創出に加え、情報発信の強化、新規企画の創出、組織体制の強化を活動目標とし、町内会・商店街と連携した企画運営に取り組んでいきます。
- ⑦地元根差したイベントのなかで幅広い年齢層の地域住民の方と関わることで、多角的な視点とコミュニケーション能力を養ってほしいと考えています。また、各々が自身の故郷への愛着をもつきっかけにもなると考えています。学生時代にこのような経験ができるのはとても貴重であり、必ず将来に生かされると考えています。

34 YNU発芸術祭・横国トリエンナーレ YNU Art Festival YOKOKOKU Art Triennial

- ①教員立ち上げ型プロジェクト
- ②山崎朱音：yamazaki-akane-xc@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤学内、横浜市、神奈川県にある多種多様な地域課題を取り上げ、ESDの視点から地域に潜む課題を見つけ解決していきます。昨年度は「自然・解放」をテーマ問いを立て、様々なインスタレーションやパフォーマンス、子供たちに向けた音楽・美術・ダンスに関するワークショップを開催しました。
- ⑥文理にとらわれない多角的な視点を持ちながら地域に潜む課題を見つけ解決し、その過程を芸術活動（音楽、美術、ダンス、文学、演劇など）を通して発信していきます。また、活動の集大成として「横国トリエンナーレ」を開催し、学内においてパフォーマンスの機会を設けます。なお、2024年度には、赤レンガ倉庫にて「横国トリエンナーレvol.1」を開催。2026年度は学外での発表を目指しています。
- ⑦イベントの企画力やマネジメント力、各々の専門的スキルを仲間と融合できる協働力

35 横国ヤギ部 YNU Goat Club

- ①学生公募型プロジェクト
- ②佐々木雄大：sasaki-takahiro-kw@ynu.ac.jp
- ③唐木走生：karaki-kakeru-jw@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤横国のキャンパス内やその周辺の緑地において、里山や在来植物の減少が課題として挙げられます。また、横国の学生と地域住民の交流不足も課題となっています。ヤギを通じてこれらの課題を解決していきます。
- ⑥活動の目的は、ヤギによる除草活動を通じて、キャンパス内の里山環境を保護していくことです。また、ヤギとの触れ合いを通じて、学生間や周辺住民との交流を促進することです。
- ⑦活動内容は主に、ヤギのお世話とヤギによる除草作業です。また、一年を通してヤギや里山に関する勉強会や、大学祭での企画展、地域の方々や自然を楽しむイベントも行っています。今年度は、教育イベントやヤギに関する調査、研究も行いたいと考えています。
- ⑧ヤギを用いた里山管理の知識、技術の習得です。加えて自然に愛着を持ったり、生き物の世話をする上での責任感を培ったりすることも考えています。ヤギを通じて学生や地域住民などの、多様な相手とのコミュニケーション能力を身につけることも目指しています。

ハマの屋台プロジェクト

Yokohama Stand Project

①学生公募型プロジェクト

②野原卓：nohara-taku-zs@ynu.ac.jp

③石井海己：ishii-miki-fy@ynu.jp

④Overseas student：○

⑤少子高齢化や人口減少といった社会構造の変化により、地域の活気や人々の交流が年々失われつつある。これらを重要な地域課題と捉え、地域の交流を促進し、持続可能な地域づくりを目指した活動に主体的に取り組んでいる。

⑥活動の目的は、「屋台を通じて人々の豊かな活動を興す」、「移動式屋台の強みを活かし、地域の活性化に貢献する」の二つである。今年度は例年通りイベントに参加することはもちろん、現在利用している屋台の改良やワークショップによって、地域の活性化に更なる貢献ができるよう尽力したい。

⑦地域の方々と連携し協力していくためのコミュニケーション能力やマネジメント能力、屋台を改良していくための設計・製作の技術を習得してほしいと考えている。

YUC (Yokohama Univer-City)

①学生公募型プロジェクト

②三浦倫平：miura-rinpei-nj@ynu.ac.jp

③竹永怜生：takenaga-ren-yd@ynu.jp

④Overseas student：○

⑤横浜国大周辺地域において、大学生と地域住民のつながりが弱く、学生が感じている大学を含めた地域の魅力、学生の活動が十分に共有されていないという課題に取り組む。YUCがつなぎ役となり、学生と地域双方を巻き込んだ交流の場を創出することをミッションとする。

⑥Yokohama Univer-City(YUC)とは、「大学をまちに開く」をコンセプトに始まった学生主導型プロジェクトです。常盤台キャンパスの空間活用やコミュニティの創造を通じて、学生・教職員・周辺住民にとって魅力的な地域づくりを行います。今年度は、都市科学部講義棟裏の草を用いたコンポストを軸に、大学という場所としての魅力を高め、大学生と地域の接点作りにチャレンジしていきます。

⑦メンバー内で積極的に交流を図り、柔軟なコミュニケーションを取ることができ、また、もちうる知識や情報を活用し、学生独自のアイデアを生み出し、その実現のために積極的な行動ができる。

学生公募型プロジェクトの募集

地域と連携した実践的な取り組みを横浜国立大学内の学生から広く公募します。

学生公募型プロジェクトを立ち上げる学生は、事前にセンターへ連絡することによって、オリエンテーションの際にプロジェクトの紹介を行うこともできます。応募に関する詳細、条件、および申請書は、下記のアドレスやQRコード先からダウンロードしてください。

■申請・提出：まずは地域実践教育センターまでご連絡ください。申請書をお送りします。chiki-ct@ynu.ac.jp

■提出締切日：4月21日(火) 23時59分まで

チェックリスト

1.地域課題実習の履修にあたり、「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」のいずれかを選択して履修登録して下さい。

2.地域課題実習の履修・参画にあたり、「入りたいプロジェクト」を「地域課題実習 参画プロジェクト 申請フォーム」に入力して下さい。(入力しないと、どこのプロジェクトに参画しているのかわからなく、成績がつきません。)

3.秋学期において「地域課題実習Ⅱ or Ⅳ or Ⅵ」を履修登録し忘れないようにしてください。(履修登録を忘れる人が多いです。履修登録しないと成績がつきません。)

4.地域課題実習の履修にあたり、「学生教育研究災害傷害保険」か「生協学生総合共済(生命共済)」等への加入はしていますか？入学時に「学生教育研究災害傷害保険」か「生協学生総合共済(生命共済)」等の保険に加入していない学生は、実習時の怪我や事故の方が一の可能性を考慮して、保険に加入してください。下記サイトから加入もできます。

MEMO

地域課題実習を履修・参画するみなさんへ：

実習時の怪我や事故の方が一の可能性を考慮して、入学時に「学生教育研究災害傷害保険」や「生協の学生総合共済(生命共済)」等の保険に加入してください。(多くの学生は入学時に加入しているようです。保護者の方にもご確認ください。)

<https://www.ynu.ac.jp/campus/support/insurance.html>

※「学生教育研究災害傷害保険」は、学生が教育研究活動中に被った災害に対し必要な給付を行い、大学の教育研究活動の充実に資するための互助共済的な制度として創設されたものです。



よくある質問

No.	質問カテゴリ	質問内容	回答
1	履修の順序	地域交流科目における各科目の履修する順番はありますか？	4年間をかけてどの科目から履修しても良いです。ただし、各授業・講義の履修年次が指定されていますので、その点は留意してください。
2	コア科目の単位	コア科目を4単位以上履修しても良いですか？	4単位以上の履修も可能です。超えた場合、卒業単位に含まれます。
3	地域課題実習Ⅰ～Ⅵの履修順序	地域課題実習のⅠ～Ⅵを履修する順序は決まっていますか？	基本的にはⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ→Ⅴ→Ⅵの順で履修して下さい。秋学期から履修する場合や、3年生以上で地域課題実習を履修して「高度全学教育指定科目」と位置付けたい場合に地域課題実習Ⅲ以上から履修する人が出ることが想定され、そのようなイレギュラーな順序での履修は可能ではありません。ただし、成績はⅠ・Ⅱ、Ⅲ・Ⅳ、Ⅴ・Ⅵの到達目標（アクティビティカ/リーダーシップカ/マネジメントカ）で評価されます。
4	履修登録申請	地域課題実習は大学の履修登録とは別に、何か申請が必要ですか？	はい。大学の履修登録とは別に、「地域課題実習参画プロジェクト申請フォーム」への登録も必要です。
5	開講時期	地域課題実習は第3、第6ターム科目の扱いですか？	いいえ。春学期、秋学期における開講科目です。
6	単位上限	地域課題実習は上限設定除外科目の単位ですか？	地域課題実習は上限設定除外科目ではありません。
7	単位履修なしの参画	地域課題実習は履修をしないで参画（参加）することができますか？	はい、できます。履修可能な単位上限を超えてしまう場合や、すでに地域課題実習Ⅵまで履修済みの学生は、履修をしないで参画（参加）でも結構です。
8	1年間同じプロジェクトに所属	地域課題実習は1年間同じプロジェクトを履修参画するのでしょうか？	地域課題実習は春学期・秋学期の1年間を通じて、同じプロジェクトに履修参画することが基本となっています。
9	プロジェクトの変更	地域課題実習のプロジェクトを一度申請した後に変更できますか？	「地域課題実習 参画プロジェクト申請フォーム」に申請した後は、プロジェクトを変更できませんので、よく考えてから申請・登録してください。
10	プロジェクトの途中変更	地域課題実習のプロジェクトは途中で変えることができますか？	春学期・秋学期の1年間を通じてプロジェクトを変更することはできません。1年間（秋学期）が終わった後、次年度のプロジェクトの選択においては、同じプロジェクトで継続することも、違うプロジェクトに変更することも可能です。
11	複数のプロジェクトへの参加・参画	地域課題実習のプロジェクトは2つ入ってもいいですか？	特に1年生は、1つのプロジェクトに専念して活動をしてください。理由は1つのプロジェクトだけでも活動量が多いからです。地域課題実習が2,3年目以上の人で、活動量に余裕がある人は、2つのプロジェクトを掛け持ちしても結構です。ただしその場合は、プロジェクトの担当教員や代表学生の方へ、プロジェクトを掛け持ちしたい旨を伝えて了解を得てください。
12	活動の時間帯	地域課題実習の活動の時間帯を教えてください。	地域課題実習は各プロジェクトによって、活動曜日・時間が異なります。「地域課題実習 詳細版」から詳細を確認してください。
13	参加対象	地域課題実習は誰でも参加できますか？	はい、原則として本学の全学部・全学年対象です。
14	他学年・他学部	地域課題実習はどんな学年や学部でも参加できますか？	はい、可能です。文理融合かつ様々な学年の学生が、1つのプロジェクト内で一緒に活動します。
15	実習内容	地域課題実習ではどんな活動をしますか？	プロジェクトごとにテーマや活動地域が異なります。
16	人数制限の抽選	地域課題実習に抽選はありますか？	基本的に抽選はありませんが、共創型プロジェクトのみ人数制限を設けていますので、制限を超えている場合などは調整をはかります。
17	単位	地域課題実習で何単位取得できますか？	春学期で1単位、秋学期で1単位です。継続して履修登録することで地域課題実習Ⅰ～Ⅵで最大6段階（計6単位）まで履修可能です。
18	成績評価	地域課題実習の成績はどのように評価されますか？	各個人の活動内容・状況や「アクティブカ」、「リーダーシップカ」、「マネジメントカ」により、S/A/B/C/F（不可）の成績評価が行われます。
19	副専攻修了	地域交流科目の副専攻を修了するための必要単位は？	①コア科目2単位以上、②講義科目0単位以上、③実践科目2単位以上、④上記の①と③の合計が6単位以上、⑤上記の①～③の合計が10単位以上必要です。
20	修了認定	修了認定はどのタイミングで申請するのがいいですか？	修了認定のめ切が年に3回あるので、修了要件の10単位が揃ったら1年次から4年次のいつでも申請が可能です。
21	修了認定	修了認定はどのタイミングで申請するのがいいですか？	修了認定のめ切が年に3回あるので、修了要件の10単位が揃ったら1年次から4年次のいつでも申請が可能です。

「修了者」からのメッセージ



新津 裕太

Yuta NIITSU

教育学部 卒業
横浜国立大学 教職大学院 進学

私は実践科目として、学外活動・学外学習Ⅲ「がやっこ探検隊」、地域課題実習「島プロジェクトin鳥羽」に参画しました。活動に参加する中で得られた地域や行政の方々と連携しながら、相手のニーズと自分たちのやりたいことをすり合わせながら実現していく経験、チームのメンバーと真剣に協働して取り組む経験は、なかなか得難いものです。自身のスキルの成長や人間性の涵養にもつながります。単位以上の経験になりますので、是非取り組んでみてください！

コア科目：地域連携と都市再生A・B
講義科目：教育社会学、教育経営、アート・マネジメント
多文化共生のための教科横断STEAM教育、他
実践科目：学外活動・学外学習Ⅲ「がやっこ探検隊」、
地域課題実習「島プロジェクトin鳥羽」



清水 翼

Tubasa SHIMIZU

経済学部 卒業
横浜国立大学大学院 国際社会科学府 修了
深谷市役所 就職

私は、将来的に地元の町を盛り上げるための実践的な経験を積むために地域交流科目を受講しました。所属していたアグリッジプロジェクトでは、農業を通じた地域活性化を理念に掲げ、野菜の生産や商品開発、地域に開いた交流企画などに取り組みました。学生のうちに地域に飛び出すことで得られる知識や経験は様々です。同じ活動する学生1人1人によっても捉え方は変わってくるでしょう。そんな多様な視野を持つ仲間や地域の方と出会えることがこのプログラムの魅力だと思います！

コア科目：地域連携と都市再生B、横浜学
講義科目：比較農業政策、中級比較農業政策
実践科目：地域課題実習「アグリッジプロジェクト」



久保 春菜

Haruna KUBO

経営学部 卒業
株式会社 Works Human Intelligence 就職

元々1春にMax履修しないといけない!という思いだけで履修を開始しましたが、経営学部として興味があった「企業の方とのやり取り」をして「地域を盛り上げる」ことに携わり、面白みを感じたため参加を継続しました。続けるうちに、大学外の方と学生として関わったり、他学部の学生と関わったりすることで、多様な興味関心から活動を続けることができました。縁ができたこと、興味を持つ世界が広がったことは私の4年間での大きな成長だと思います。

コア科目：地域連携と都市再生B、神奈川のみらい
講義科目：ベンチャーから学ぶマネジメント
実践科目：地域課題実習「はまみらいプロジェクト」、
「モビリティ・デザインの実践プロジェクト」、
「転倒しない街共創ラボ『こらぼ』」



南村 紬

Tsumugi NAMURA

理工学部 卒業
横浜国立大学大学院 環境情報学府 進学

地域の方との交流を通じて、理工学部では学べない実践的な考えを身につけることができました。特に、自分たちが「楽しそう!!」と感じたことを実現できたことが大きな学びとなりました。また、他の学部の人と関わる機会を得たことで、自分にはなかった多様な視点を知ることができ、新たな発見がありました。こうした経験を通じて、学びは教室の中だけでなく、実際の活動を通じても深まることを実感しました。

コア科目：横浜学
講義科目：安全・環境と社会、地誌学概論
日本語教育から広がる世界、環境管理学
実践科目：地域課題実習「サコラボ」



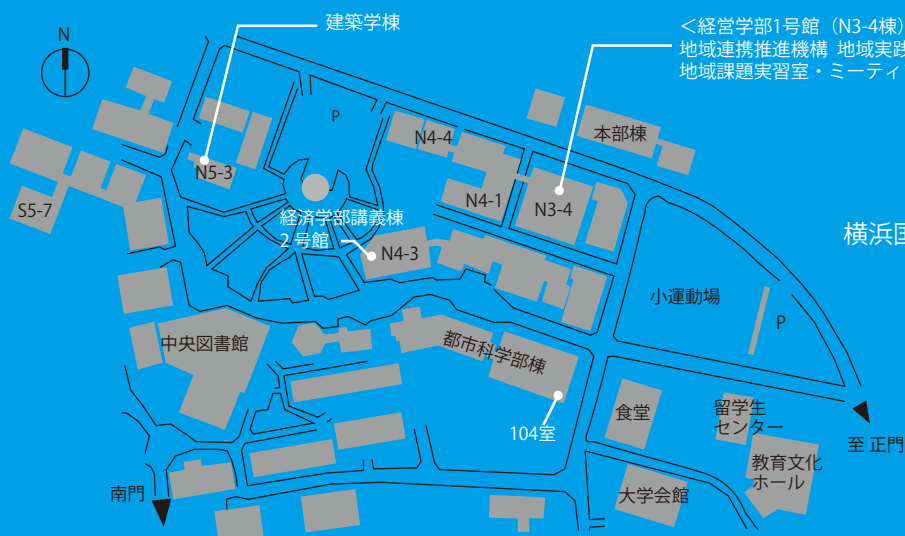
三浦 萌夕

Moeyu MIURA

都市科学部 卒業
横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府 修了
東急株式会社 就職

イベントの開催を通じて、地域に関する意見収集や魅力発信、人と人の繋がりづくり、居場所づくりに取り組みました。その中で、異なる立場の方々や協働するための調整力や、活動を体系的に解釈し組み立てる力を鍛えることができました。人やまちが元気になっていく様子は、むしろ元気をいただくものでしたし、長期的な活動の中で得られた関係性は大きな財産となっています。今後も、学生の皆さんが存分に挑戦し、多くを学べることを願っています。

コア科目：地域連携と都市再生A,B,
講義科目：都市基盤計画論、都市基盤解析論、
都市生態学
実践科目：地域課題実習「ハマの屋台プロジェクト」
「ロカモビプロジェクト」



■ 問合せ・連絡先：
地域実践教育研究センター

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3
横浜国立大学 経営学部1号館 8F 801号室 (6月頃~)

chiki-ct@ynu.ac.jp
http://chiki-ct.info

